

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

葛城市（奈良県）

2 地域再生計画の名称

葛城の風土が織りなす都市・農村交流計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定の日から～平成21年度（6年間）

4 地域再生計画の意義及び目標

(1)地域の概要

葛^{かつらぎし}城市（旧新庄町地内）は県庁所在地奈良市から約24km、隣接する大阪府の都心から約30kmの距離にあり、奈良盆地の南西部に位置する市域面積33.73km²の地域である。市内には近鉄南大阪線・御所線、JR和歌山線があり、広域幹線道路として県の南北方向の大動脈である国道24号、東西方向の国道165号大和高田バイパスとこれに接続し大阪方面と結ぶ南阪奈道路が通っている。

葛城市（旧新庄町地内）の位置する葛城地域は、古代において葛城国と呼ばれる地域首長国の中心地であったと推測されている。葛城国は非常に古く、はるか飛鳥以前、大和朝廷による統一前夜、葛城首長家の独立的勢力圏としてあらわれ、おおむね5世紀末まで続いたといわれている。このため、周辺には現在でも多くの埋蔵文化財が点在しており、当時の条理は田畑の畦畔に名残をとどめている。万葉の歌人柿本人麻呂の生地と伝えられていることでも知られている。

また、大阪府との境界をなす金剛・葛城山系の豊かな緑や水など、恵まれた気候風土を利用し、葛城市（旧新庄町地内）では稲作をはじめ多様な野菜類や二輪菊に代表される花卉栽培の生産、千頭近い飼育頭数を誇る乳用牛の飼育などが行われており、自然と人々の営みが調和した良好な景観を醸し出している。平成2年に開設した葛城山麓公園は広域から多くの人々が訪れ、近郊型のレクリエーションの場として高い評価を得ており、本地域に係る「二上・當麻」や「金剛・葛城」へは年平均80万人前後の観光客が訪れている。葛城市（旧新庄町地内）の歴史的風土や豊かな自然、良好な田園風景などの恵まれた環境は住民意向調査でも地域の魅力として大きく評価されている。

このような環境を背景として、大阪や近隣都市などへの通勤・通学に非常に便利であることから、葛城市（旧新庄町地内）では昭和40年代以降住宅地の開発などによる市街地の拡大が進み、ベッドタウン的な機能を併せ持つようになった。しかし、土地利用や都市基盤といった面で都市機能が十分にはたせているとはい

えず、また、農業意欲の低迷、農業者の高齢化や担い手不足等で農地が荒廃して
いくなか農業の衰退を抑止し、あわせて良好な田園環境を保全していくことも産
業・都市機能の両面で本地域の再生には欠かせない課題となっている。

(2)計画の概要と意義

このようなことから、豊かな歴史・自然的環境と利便性の高い交通条件など本
地域の特性を最大限に活かした定住と交流のための空間への再整備やしきみづく
りを行っていくことが求められるとともに、このことは地域がはたすべき大きな
使命であると考えます。

特に、南阪奈道路の開通により飛躍的に交通条件が向上した山麓地域において
は、非農家の農業参加や都市住民との農業交流を推進するため、遊休農地の利活
用による農業の観光化を図る必要があり、同時に歴史・自然環境を活かしたレク
リエーション・学習の場を提供するための空間づくりが求められる。

このため、山麓地域の景観を活かしながら、研修・情報発信・休養等の中心的
機能を持つ農村交流施設を整備する。この周辺には、クラインガルテンや市民農
園、花の栽培温室を配置するとともに、観光施設として乳用牛の牧場や放牧地を
整備し、乳製品の加工を体験できる施設等を配置する。また、水稻の転作作物と
してそば栽培を拡大しながら、そば打ち体験ができ郷土食として味わえるそば茶
屋を配置する。アクセス道路沿道には地元農産物等の直売所や案内施設を設置す
る。このほか、歴史や自然などに親しみ学習する施設の配置を行う。

これら農業や自然などとふれあう魅力的な施設整備により、グリーン・ツーリ
ズム等が可能な空間「山麓リゾート」が形成され、本地域を訪れる観光客等が大
幅に増加するものと考えられる。

また、支援措置230004「都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連
携強化」による情報提供を活用し、食と緑の朝市、そば打ち大会、スタンプラリ
ー等のイベントの開催や、農業者等によるこれら活動への支援、都市への情報発
信のためのネットワークづくりなど、ハード・ソフト一体となった、当地域に則
した近郊型都市農村交流を図る。

一方、本地域の東部にあるJR大和新庄駅周辺地区は、広域的な幹線道路であ
る大和高田バイパスに近く、奈良県の南北方向の幹線道路である国道24号も通
り、あわせて大半がJR和歌山線大和新庄駅の駅勢圏にありながら、都市基盤な
どが十分整っていないため、発展が期待されながら遅れている。地域の東西が分
断されている状況もみられ、観光・交流面でのアクセス機能の脆弱さの要因とも
なっている。

これらのことから、支援措置212028「まちづくり交付金の創設」を活用
し、駅前における市街地整備や、東西を結ぶ幹線道路、街区公園などの都市基盤
の整備を検討するとともに、市民農園やふれあい広場の整備、農業者の知識・経
験などを活かした諸活動の促進などにより、都市と農村の交流を積極的に推進す

る。

このように、本計画の実現は新市誕生後の中心部の機能強化を図り、地域住民の交流を促進し、さらに都市と自然・農業的環境が融和した豊かで住みよいまちづくりの実現に寄与するものとして期待される。

(3) 計画の目標

葛城地域の歴史や自然などの風土を活かし、都市的な機能と農業的な機能、市街地と田園空間などが調和した良好な定住環境や観光・レクリエーション空間等の創出により、定住・交流人口等の増大を図る。

目標 1：定住人口の増加等

わが国の人口が減少に転じる中で、健康的な暮らしができ余暇生活を充実することのできる地域は今後とも安定した人口が確保できるとともに、その使命があるものと考えられる。このことから都市と農村が共存した本地域において、その特性を活かした定住環境の形成を図る。

このため、JR大和新庄駅周辺において駅前環境の整備をはじめ、住宅系市街地や幹線道路、公園等の整備により住環境の向上を図り、定住人口の増加を見込む。また、山麓地域における農業の観光化などを進め、経済基盤の安定化を図り、集落地における安定した定住人口の確保を見込む。

これらにより地域を維持していく安定的な人口の確保をめざす。

目標 2：観光客等の増加

山麓地域において、消費者の志向に対応した農畜産物等の直売やふれあい体験の場の形成などにより周辺地域を訪れている観光客の誘導や新たな観光客の誘致を図る。また、JR大和新庄駅周辺において人を中心とした交通の流れを円滑化し、にぎわいの創出により消費人口の増大を見込む。

これらにより地域産業の活性化につなげていく。

目標 3：交流人口の増加

山麓地域における生産者と消費者がふれあえる空間・体制づくりや駅前周辺整備などによる交通条件の向上などを図りながら、都市住民どうしや都市住民と農村地域の住民が交流する機会と場を提供し、交流人口の増加を見込む。

これらにより、人間性の回復とまちづくりにおける生き生きとした行動力（やる気）の確保につなげていく。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

本計画は、次のような効果を図ろうとするものであり、その実現により地域経済の活性化・雇用の促進、ひいては地域の定住・レクリエーション・学習機能の向上が図られ、真に住みよい地域が実現できるものと期待できる。

(1) 農業経済等の活性化

地域農産物の販売等による直接的な経済効果や雇用創出効果が期待できるとと

もに、消費につながる交通量の増大により民間による商業施設の立地等の経済的波及効果が期待できる。あわせて、地域農産物の販売による農業者の収益の増大は、経営意欲の向上、並びに農地とそれを取巻く自然環境などの適正な維持管理につながるものとして期待できる。

(2) 鉄道駅周辺におけるにぎわいの創出等による経済の活性化

J R 大和新庄駅の乗降客など駅利用者の増加が見込まれることにより、にぎわいが創出され、商業・業務施設などの立地が促進されるなど駅周辺の活性化が期待できる。

(3) 定住人口の増大および税収の安定化等

計画的な基盤整備による良好な住環境の形成により、集落地等からの流出の防止による人口定着及び新たな流入による人口増加が図られるとともに、税収の安定化が期待できる。

また、利便性や快適性、交通・防災面などの安全性の向上など良好な住環境の形成のうえに、余暇時間を有意義にする交流活動の場や機会の増大により、地域の魅力が高まり、定住意識の向上も期待できる。

(4) 公共公益施設等の利用促進

幹線的な道路や駅前の整備により交通利便性が飛躍的に向上し、鉄道利用の促進が図られるとともに、新庄スポーツセンター・新町運動公園等の公共公益施設の利用が促進される。また、山麓地域にある葛城山麓公園や社会教育センター等の公共公益施設の利用者の増加も期待できる。これらの施設の一部では、利用者の増加により地域雇用の増大にもつながる。

(5) 住民の活動機会・意欲の向上

住民参加による緑化運動などの活動を支援することにより、公園などを媒体とした良好なコミュニティの形成が期待できるとともに、日常的な活動をはじめ交流・ふれあい機会の向上が期待できる。また、魅力ある交流関連施設が整うこととあわせて、住民の活動意欲の向上が図られるものと期待される。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

2 3 0 0 0 4 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業
該当なし

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
該当なし

別紙 支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容、支援措置を受けようとする者及び支援措置を講じようとする日

別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 2 0 2 8 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとする者

葛城市（奈良県）

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本地域の東部にあるＪＲ大和新庄駅周辺地区は、広域的な幹線道路である大和高田バイパスに近く、奈良県の南北方向の幹線道路である国道２４号も通り、あわせて大半がＪＲ和歌山線大和新庄駅の駅勢圏にありながら、都市基盤などが十分整っていないため、発展が期待されながら遅れている。

また、鉄道により地域の東西が分断されている状況もみられ、観光・交流面でのアクセス機能の脆弱さの要因ともなっている。

これらのことから、支援措置２１２０２８のまちづくり交付金を活用による駅前における市街地整備や、東西を結ぶ幹線道路、街区公園などの都市基盤の整備を検討する。

実施主体：葛城市（奈良県）、土地区画整理事業組合

実施場所：ＪＲ大和新庄駅周辺地区

実施期間：平成１７年度～平成２１年度（５年間）

土地区画整理事業（基幹事業／組合）

- ・人口増加を図るため、ＪＲ大和新庄駅東地区において組合施行による土地区画整理事業を行い、良好な都市基盤の整備を検討する。

地方道路整備事業（基幹事業／地方道）

- ・交通ネットワークを強化し、地域内交流の促進、公共公益施設の利用増進を図るため、地区内外を東西に結ぶ骨格となる道路整備を検討する。

地域生活基盤施設（基幹事業／広場）

- ・集落地等の定住環境を整えるため、ふれあい広場の整備を検討する。

高次都市施設（基幹事業／自由通路）

- ・ＪＲ和歌山線により分断された市街地を東西に結び、歩行者等の交流を活性化させるとともに、放置自転車の解消をめざし、自由通路の整備を検討する。

提案事業

緑化運動、市民農園開設（提案事業）

- ・整備された道路・公園などの維持管理、活用などの面で、住民参加による活動を活発化するとともに、都市と農村の交流のため市民農園の開設を検討する。

ワークショップ開催（提案事業）

- ・各種事業及び都市基盤整備後のまちづくり活動が円滑に推進されるよう地域住民によるワークショップ（企画立案、運営などの会議、作業のシステム）によりまちづくり活動を展開していく。

関連事業

街路事業（関連事業 / 都市計画道路）

- ・JR大和新庄駅の駅前環境を整えるため、駅前から近鉄新庄駅方面につながる都市計画道路の整備を引き続き行う。

公園整備事業（関連事業 / 街区公園 2 箇所）

- ・駅前において住民が憩い、やすらぐ場となる街区公園を東西 1 箇所ずつ整備する。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

2 当該支援措置を受けようとする者

葛城市（奈良県）

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

金剛・葛城山系のふもとに位置する山麓地域は、自然環境が豊かで、古墳や城跡などの文化財を擁する歴史的風土の中で、菊に代表される花卉栽培や乳用牛の飼育などの特徴ある農業が営まれている。

このような大和の農村地域の原風景とも言うべき恵まれた環境を活かして社会教育センターや葛城山麓公園、屋敷山公園、文化会館などの公共施設が立地し、多くの人々が訪れているが、地域の資源が十分活用されておらず、また、農業を中心とした地域の活力が低下しつつある。都市近郊の地域としては、このような条件を活用した体験・学習型の観光・レクリエーション空間を形成し、都市農村の交流を図ることが課題である。

そこで、これらに対応するため、支援措置である情報提供を活用し、既存の公共施設や新たに整備する農業関連施設、都市施設(公園)等と有機的な連携を図りながら、食と緑の朝市、そば打ち大会、スタンプラリー等のイベントの開催や、自主的な活動を行う農業者等地域住民への支援、都市への情報発信のネットワークづくりなどに役立てる。